

数字で見るワイン産業（2020年6月現在）

スペインは世界でも有数のワイン生産国である。栽培面積では世界1位にランキングされ、2019/2020期のワインとマストの生産はイタリアおよびフランスに続いて第3位、また、2020年3月までの輸出総量でもイタリアに続き世界第2位、輸出総額で第3位の位置を占める。

スペインにおけるワイン産業は、経済的観点からだけでなく、社会の中で果たす役割、環境保護の観点からみても重要なものである。また、海外におけるスペインのイメージを代表するものとして、この産業の果たす役割は大きい。

1. 世界市場の状況

ぶどう栽培面積

国際ぶどう・ワイン機構 - O.I.V. (International Organization of Wine and Vine) のデータによると、2019年の世界のぶどう栽培面積は前年とほぼ同じ約740万haと推定された。ただし、EU域内の栽培面積は2018年に比べ（約330万ha）わずかに減少がみられる。

EUのワインの生産能力調整促進政策が終了してより、EUのぶどう栽培面積の減少は目に見えて緩やかになった。2011年から2012年にかけて、EUのぶどう栽培面積は4万5000ha減少したが、2013年から2014年では、1万9000haの減少にとどまっている。今期、EU域内のぶどう栽培面積は320万haと推定される。新しいぶどう栽培面積管理体制により、ヨーロッパ産ワインの年間増産率が1%になるよう制限されている。

国別ぶどう栽培面積												
											(単位：千ha)	
出典：O.I.V.のデータを元に、OeMvが作成												
	2008	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 暫定	2019 予測	構成比率
スペイン	1.165	1.082	1.032	1.017	973	975	974	975	968	972	966	13,05%
フランス	858	818	796	792	793	789	786	785	788	792	794	10,73%
イタリア	825	795	720	713	705	690	685	693	699	701	708	9,56%
ポルトガル	246	244	236	233	227	224	204	195	194	192	195	2,63%
ルーマニア	207	204	191	192	192	192	191	191	191	191	191	2,76%
他のEU加盟国	491	474	461	472	472	473	476	477	472	463	346	4,67%
EU合計	3.792	3.654	3.464	3.419	3.362	3.343	3.315	3.317	3.312	3.311	3.200	43,23%
米国	402	404	413	412	449	450	446	439	434	408	408	5,51%
トルコ	518	514	508	497	504	502	497	468	448	448	436	5,89%
中国	480	539	633	707	757	813	859	807	830	855	855	11,55%
アルゼンチン	226	217	219	222	224	228	225	224	222	218	215	2,90%
チリ	198	200	206	206	208	213	214	209	207	203	200	2,70%
南アフリカ	198	200	206	206	208	213	214	209	207	203	200	2,70%
173	173	171	170	162	157	154	147	145	145	146	146	1,97%
非EU合計	3.945	3.933	3.324	3.393	3.487	3.570	3.592	3.578	3.563	3.563	3.563	48,14%
全世界合計	7.576	7.512	7.485	7.487	7.538	7.557	7.540	7.398	7.390	7.409	7.402	100,00%

2019年のEU域外のぶどう栽培面積は2018年とほぼ同じレベルを維持して約360万ha。主要な牽引役は中国で、中国はスペインに次ぐ、世界第2位のぶどう栽培面積を持つ国としての地位を確立し、85万5000haを維持している。ただし、O. I. V. のデータによると、中国に現存するぶどう栽培面積のほぼ3分の2は生食用品種のぶどう（ワイン醸造用ではない）の栽培にあてられている。総栽培面積のうち巨峰の栽培面積は44%、レッドグローブは18%を占める。またO. I. V. のデータには干しぶどう用に向けられるぶどうの栽培面積も含まれているため、純粋にワイン醸造用のぶどう品種の栽培面積で比較する場合、世界第2位の地位を中国とする際にはこの点に注意を払いたい。

世界の生産量

O. I. V. は、2019年の世界の生産量（マストとブドウジュースを除く）は約2億6000万ヘクトリットルと予測する。2018年との比較で11.5%の減産となり、3400万ヘクトリットルの減少は目を引く。

2019年のEU域内でのワイン生産量は1億5600万ヘクトリットルと推定され、2018年の生産量より約14%減少した（2600万ヘクトリットル減）。この減少は、EUの主要生産国を見舞った不順な天候（春の霜、雹、干ばつ、高温）によるもの。主要国の生産量はそれぞれ、イタリア（4750万ヘクトリットル）、フランス（4210万ヘクトリットル）、スペイン（3350万ヘクトリットル）で、この3国の合計で2019年の世界のワイン生産量の48%を占めるが、2018年の生産量と比較すると大幅な減産となった。

EU域外では、米国の生産量は2430万ヘクトリットルで、2018年と比較して約2%の減産。こちらの減産の原因は悪天候や10月にカリフォルニアを襲った火災によるものというよりも、むしろ、ぶどうやワインの供給過剰を回避するための対策とみられる。

南半球では、南アメリカ諸国では全般的にマイナス傾向。アルゼンチン（1300万ヘクトリットル）、チリ（約1200万ヘクトリットル）など、2018年と比較して2019年のワインの生産量は減少したが、それ以上にブラジル（200万hl）は2019年、5年間の平均の生産量と同等あるいはそれを上回る100万ヘクトリットルを超える顕著な減産を記録した。南アフリカでは、2019年の生産量は900万ヘクトリットルに達し、2018年の低かった生産量と比較して3%の増加。しかしながら、2016年から3年連続して同国に大きな影響を与えた干ばつ以前に記録された平均生産レベルからはほど遠い。オセアニア諸国に関しては、2019年のオーストラリアのワイン生産量は2年連続で減少し、1200万ヘクトリットル（6%減）。ニュージーランドでは、ワインの生産量は300万ヘクトリットルで、1%の減少。

EUにおける生産状況

O.I.V.の発表したデータによると、2019年のEU諸国のワイン生産量は1億5600万ヘクトリットルで、前年と比較して約14%の減少が予測される。

2019年10月時点の欧州委員会の予測データによれば、2019/2020期にEU域内で生産されるワインとぶどう果汁の量は1億6090万ヘクトリットルと予測され、非常に生産量の増えた2018/19期と比較して15%の減少となると見込まれている。

2019/2020期の総量のうちの97%にあたる1億5600万ヘクトリットルがワインとして醸造されたと推定される。内訳は、7510万ヘクトリットルがPDOワイン（原産地呼称保護—スペイン語DOP-Denominación de Origen Protegida 48.1%）、3220万ヘクトリットルがPGIワイン（地理的表示保護 同IGP-Indicación Geográfica Protegida 20.6%）、880万ヘクトリットルがPOD、PIGのない品種名記載ワイン（5.6%）、4000万ヘクトリットルがその他のワイン（25.6%）と推定される。

ワインの種類別に生産国を見ると、PDOワインの生産第一位の国はイタリアで、2190万ヘクトリットル、少しの差でフランスの2010万ヘクトリットルが続く。スペインは1650万ヘクトリットル。

PIGワインの生産量でもイタリアが約1260万ヘクトリットルで第1位につけ、スペインが1200万ヘクトリットルで続く。単独品種ワインでは、EUの中でスペインが首位を占め、710万ヘクトリットル。

上記に分類されないその他のワインについては、2019/2020期、スペインが最も多い1120万ヘクトリットルを生産した。2位と3位はイタリアとフランスで生産量はほぼ同じ。ルーマニアは360万ヘクトリットルで第4位。

ヨーロッパにおけるワイン生産量				
2019/2020期				
出典: EUのデータをもとにOeMvが作成				
国	2019/20期 生産量 (単位:千hL)	全体に占める 割合	2018/19期 シーズン比較	2014/20期 5シーズン比較
イタリア	47.600	29,60%	-15%	-3%
フランス	43.356	26,90%	-13%	-4%
スペイン	38.100	23,70%	-23%	-11%
ドイツ	9.036	5,60%	-12%	1%
ポルトガル	6.676	4,10%	10%	4%
その他のEU諸国	16.132	10,10%		
EU合計	160.900	100,00%	-15%	-4%

ワイン消費量

O. I. V. が 2020 年 4 月に発表した最新のデータによると、2019 年の世界のワイン消費量は、2 億 4400 万ヘクトリットルとみられ、前年とほぼ変わらない。2018 年にワイン消費量の減少がみられたが、これは主に、中国、ロシア、アルゼンチンにおける消費鈍化の影響。また、EU 域内ではフランス、イタリア、イギリスなどのいくつかの主要消費国でのマイナス成長によるものと考えられる。2019 年には消費動向はやや上向いたと考えられる。

2019 年の EU 諸国の消費量は 1 億 2800 万ヘクトリットルで、世界の消費の 53%に相当する。この数値はここ数年来のものとはほぼ横ばい状態あるが、消費減少がみられた国々とその逆の傾向を持つ国々との間で相殺されていると考えられる。すなわち、イタリア（2260 万ヘクトリットル、+0.9%）、ドイツ（2040 万ヘクトリットル、+2%）、イギリス（1300 万ヘクトリットル、+0.8%）、スペイン（1110 万ヘクトリットル、+1.8%）などで 2018 年と比較して消費量が増加している一方、フランス（2650 万ヘクトリットル、-0.7%）、ポルトガル（500 万ヘクトリットル、-2.0%）、オランダ（350 万ヘクトリットル、-1.8%）、ベルギー（270 万ヘクトリットル、-2.5%）などのその他の EU 諸国では 2018 年と比較して減少傾向がみられた。

米国は 2019 年、消費量 3300 万ヘクトリットルを記録して、改めて世界第 1 位のワイン消費国として地位を確立した。O. I. V. の推定によると、国内消費は 2018 年と比較して 1.9%増加である。

中国に関しては、2019 年のワイン消費量は 1780 万ヘクトリットルと推定され、2018 年比で 3.3%の減少。ここ 2 年連続して減少していることを考慮すると、過去 20 年間の急速な成長は終わりに近づいているとみられる。ただし、2018 年および 2019 年に生産供給レベルも下がっているため、これが 2019 年のワイン消費量の統計にも少なからず影響している可能性を否定できない。この見かけ上の消費量を解釈する場合にはこの点の注意が必要である。日本はアジア諸国の中では 2 番目の消費大国（世界で第 15 番目）である。6 年連続で 350 万ヘクトリットルの安定した消費レベルを記録している。

南アメリカでは、2019 年の全般的なワインの消費量は 2018 年と比較して増加し、アルゼンチンは 850 万ヘクトリットル（+1.2%）、ブラジルは 330 万ヘクトリットル（+0.5%）、チリは 240 万ヘクトリットル（+4.6%）。

南アフリカでは消費量は減少し（400 万ヘクトリットル、2018 年比 6.2%減）、4 年連続して 430 万ヘクトリットルを超える数字を記録していたが、2014 年のレベルに戻った。

オーストラリアでは、ワインの消費量は 590 万ヘクトリットルと推定され、2017 年と 2018 年にみられた高水準に近い値となっている。

世界のワイン消費量

(単位:100万hL)

出典: O.I.V.のデータをもとにOeMVが作成

国名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 暫定	2019年 予測	2019/1 8 年比	構成比率
フランス	28.0	27.8	27.5	27.3	27.1	27.0	26.7	26.5	-0.7%	10.9%
イタリア	21.6	20.8	19.5	21.4	22.4	22.6	22.4	22.6	0.9%	9.3%
ドイツ	20.3	20.4	20.3	20.5	20.2	19.7	20.0	20.4	2.0%	8.4%
イギリス	12.8	12.7	12.6	12.8	12.9	13.1	12.9	13.0	0.8%	5.3%
スペイン	9.9	9.8	9.9	9.8	9.9	10.5	10.9	11.1	1.8%	4.5%
米国	30.0	30.8	30.6	30.9	31.3	31.5	32.4	33.0	1.9%	13.5%
中国	17.1	16.5	15.5	18.1	19.2	19.3	18.4	17.8	-3.3%	7.3%
アルゼンチン	10.1	10.4	9.9	10.3	9.4	8.9	8.4	8.5	1.2%	3.5%
オーストラリア	5.4	5.4	5.4	5.5	5.4	5.9	6.0	5.9	-1.7%	2.4%
ロシア	11.3	10.4	9.6	9.7	10.1	10.4	9.9	10.0	1.0%	4.1%
ポルトガル	5.0	4.2	4.3	4.8	4.7	5.2	5.1	5.0	-0.2%	2.0%
世界合計	243.6	243.0	240.0	243.0	244.0	246.0	244.0	244.0	0.0%	100.0%

2. スペインにおけるワイン産業

スペインにおけるワイン産業は重要な地位を占める。それは単に、この産業の生み出す経済価値だけによるのではなく、この産業に従事する人口、また環境保全の意味からも、この産業の果たす役割は大きい。

ぶどう栽培面積

O.I.V.のデータによると、2019年のスペインのぶどう栽培面積は96万9000haでEU域内及び世界で不動の最大栽培面積を有している。これはEU域内の全ぶどう栽培面積のほぼ30%を占め、次いでフランスが23%、イタリアが22%と続く。また世界の栽培面積と比較すると約13%をスペインが占める。スペインのワイン製造の歴史は古く、ローマ時代にまで遡るが、大規模な輸出産業として発展したのは近年になってからである。

スペインにおけるぶどう栽培

地理的位置関係、気候の違いや土壌の多様性が、イベリア半島や周辺の島々を、非常にバリエーション豊かなワインの産地とならしめている。スペインには17の地方自治州があるが、そのすべての地域でぶどう栽培が行われている。しかし、全体の約半分を占めるのがカスティーリャ・ラ・マンチャであり(46万8027ha、ぶどう作付面積の49.1%)、世界最大のぶどう栽培面積を誇っている。次いでエストレマドゥーラ(8万5785ha、9%)、カスティーリャ・イ・レオン(6万0927ha)、バレンシア(6万0927ha)。この主要4地域に続くのが、カタルーニャ、ラ・リオハ、アラゴン、ガリシア、ムルシア、アンダルシアである。

減反政策が終了した後のスペインのぶどう栽培面積は安定している。スペイン農業・漁業・食糧省が実施した「栽培面積と収量に関する調査(ESYRCE - Encuesta sobre Superficies y Rendimientos Cultivos)」によると、2019年の我が国のぶどう栽培総面積は、95万2829ha。前年の96万0758haからは、0.8%(7929ha)の微減がみられた。2018年と比較して、6つの地方自治州でぶどう栽培面積が増加した。

スペインには、原産地呼称保護(PDO)認定ワインを生産している地域が90あり、68地域に原産地呼称(DO - Denominación de Origen)、2地域に特選原産地呼称(DOC - Denominación de Origen Calificada)、6地域に地域名称付き高級ワイン(Vino de Calidad con Indicación Geográfica)、14地域に単一ぶどう畑限定高級ワイン(Vino de Pago)がそれぞれ認められており、各生産地でヨーロッパの基準に従って、生産量、醸造法、品質管理のすべての面で厳しい管理が行われている。

また、上記の他に地理的表示保護(PGI)が認められたワイン生産地域が42か所ある。

スペインで最初に原産地呼称が認められたのは1932年で、ヘレス(Jerez-Xérès-Sherry y Manzanilla - Manzanilla-Sanlúcar de Barrameda)、マラガ(Málaga)、モンティエリヤ・モリレス(Montilla-Moriles)、リオハ(Rioja)、タラゴナ(Tarragona)、プリオラート(Priorato)、アレーリヤ(Alella)、ウティエル・レケーナ(Utiel-Requena)、バレンシア(Valencia)、アリカンテ(Alicante)、リベイロ(Ribeiro)、カリニエナ(Cariñena)、ペネデス(Penedés)、コンダード・デ・ウエルバ(Condado de Huelva)、バルデベニーヤス(Valdepeñas)、ラ・マンチャ(La Mancha)、ナバーラ(Navarra)とルエダ(Rueda)であった。

英語版 Winesfromspain のサイトから、スペインの DO/ PGI マップをダウンロードすることができますのでご利用ください。

<https://www.foodswinesfromspain.com/spanishfoodwine/global/wine/do-and-igp-maps/index.html>

公表されている最新のデータによると、収穫されるぶどうのうち、51.1%が赤ワイン及びロゼワイン用で、48.9%が白ワイン用である。スペインで栽培されるぶどう品種は、生産量の多い順から、アイレン(23.5%)、テンプラニーリョ(20.9%)、ボバル(7.5%)、ガルナチャ・ティンタ、モナストレル、パルディナ、マカベオ、パロミノである。この中で、赤ワイン用はテンプラニーリョ、ボバル、ガルナチャ・ティンタ、モナストレルで、残りは白ワイン用である。

一方、ワインのスペイン国内消費量は近年で若干増加しているものの、引き続き懸念される数値を示し続けている。現在のところ、一人当たりの年間消費量は20リットルを下回っており、ヨーロッパ諸国の中でも下位に位置する。

スペインにおけるワイン生産量

ワイン産業市場情報システム (INFOVI - Sistema de Información de Mercados del Sector Vitivícola) が 2020 年 7 月に公表したデータによると、2019/2020 期のワインの生産量は 3368 万ヘクトリットルで、生産量が大きく伸びた前期に比べると 1130 万ヘクトリットル (25% 減) の減産である。

この数字に 2019 年 11 月に発表された 360 万ヘクトリットルのマスト生産量を加えると、2019/2020 期のワインとマストの生産量は約 3730 万ヘクトリットルとなる。

3. 産業の構造

現在、スペインのワイン産業は、近代化とリノベーションの重要な変換の時期にある。2000 年以來、再転換がなされてきたぶどう栽培地の面積は 13 万 ha を超え、このために 8 億€に及ぶ投資が行われている。スペインでは約 4000 のワイナリーがスティルワイン、発泡性ワインやリキュールワインの生産に従事している。その大部分が小規模な、国内資本または家族経営で運営されるものであるが、一方では、かなりの数の農業協同組合も組織されている。

一方、売上高 1 億€以上の大規模ワイナリーの代表的な企業には、フレシネ (Freixenet)、J. ガルシア・カリオン (J. García Carrión)、コドーニユ (Codorniu)、アルコ・ワイン・インベストメント・グループ (Arco Wine Investment Group)、ドメック・ボデガス (Grupo Domecq Bodegas)、ミゲル・トーレス (Grupo Miguel Torres S.A)、フェリックス・ソリス・アバンティス (Félix Solís Avantis)、ファウステイーノ (Grupo Faustino) などのよく知られた名前が並ぶ。

つまり、産業構造としては、小規模ワイナリー及び協同組合と大規模企業が共存しており、大手ワイナリーは、バラエティー豊かな製品を提供するために、様々な地方にワイナリーを所有している。生産の全過程で品質管理を徹底するため、自社用のぶどう畑を購入したり、作付面積を拡大したりするワイナリーもあるが、他のぶどう栽培農家からの原料となるぶどうの買付けや、協同組合からワインに加工されたものを購入している場合もある。また、より幅広い高品質なワインを生産するために、ワイナリーの開設、設備・施設の改良、熟成方法の技術開発のために多額な投資が行われてきたが、昨今の経済危機の影響を受け、投資レベルは低下した。その状況下でも、多くのワイナリーが、新しいぶどうの品種やその土地固有の品種を使って、試行錯誤を繰り返し、技術革新を行いながら、今の時代の消費者の好みにあったワインの生産を行っていることは特筆すべき点である。

高品質ワインのワイナリー数をもっとも多いのは特選原産地呼称 DOCa リオハで (801)、続いて DO カバ (390)、DO リベラ・デル・ドゥエロ (310)、DO ラ・マンチャ (269)、DO カタルーニャ (202)、DO ペネデス (173)、DO リアス・バイシャス (184) である。

ワイナリーの刷新に際し、世界的に著名な建築家に依頼して新ワイナリーの建設を行う動きも起こり、例えばリオハのドメック(Domecq)、ボデガス・イシオス(Bodegas Ysios)はサンティアゴ・カラトラバ氏設計による。また、CVNE のワイナリーはフィリップ・マジエール氏設計、マルケス・デ・リスカル(Marqués de Riscal)はフランク・O・ゲイリー氏設計による。ザハ・ハディッド氏設計による R・ロペス・エレディア(R. López Heredia) の店舗や、ナバーラのボデガス・チビテ(Bodegas Chivite) のためにラファエル・モネオ氏が設計したセニョリオ・デ・アリンサノ(Señorío de Arínzano) が挙げられる。

ワイン業界は非常に活発な動きをみせている。市場集中度も比較的高く、上位 5 社で市場の約 28%を占めている。外国資本の参入については、大手企業においてはそれほど大きくはないが、海外での販売力を高めるために、他国の同業他社とのジョイントベンチャーを行うことが増えている。同様に、激戦化する海外進出のプロセスに共同して取り組むため、マーケティングの専門家と提携するケースも増えている。

4. 輸出

世界の輸出状況

新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で 2020 年の第 1 四半期は非常に厳しいものとなり、5 年ぶりに世界のワイン販売価格を下落させた。2020 年の第 1 四半期は、貿易的な視点からみて「大いなる不確実性の時期」として注目される。世界のワイン産業の直面する脅威として英国の EU 離脱問題、トランプ政権によって課された米国の関税問題、2020 年 6 月から施行されたロシア連邦の新しいワイン法なども挙げられるが、何よりも、世界的な新型コロナウイルスの大流行によって引き起こされた危機の影響は苛烈である。

世界のワインの輸出は、2020 年の第 1 四半期に、数量ベースで 2.7%、金額ベースで 4.9%の減少となり、それぞれ 24 億リットル、68 億 1000 万€に相当する。これは前年同期の 2019 年第 1 四半期の販売と比較して 6600 万リットルの減少であり、3 億 5000 万€を超える損失となる。平均販売価格の落ち込みは 0.7%でわずかともいえるが、1 リットル当たり 2.84€の 6 セント安となった。値崩れはとりわけフランスワインの価格の落ち込みに顕著に現れた (2 億 4500 万€安)。

数力国の税関データを集計した GTA(Global Trade Atlas) の統計(2019 年 4 月から 2020 年 3 月の年度統計)をもとにして 2020 年の第 1 四半期の推移をみると、2020 年 3 月時点では世界のワインの輸出は数量ベースで 1.4%伸びて、103 億 4100 万リットルの増加を記録している。しかしながら、世界全体で売上高は約 0.7%減少し、314 億 3000 万€をわずかに下回る結果となった。これは、平均販売価格が 2.2%下がり、1 リットル当たり 3.11€から 3.04€に値下がりにしたためである。2019 年 3 月までの 1 年間と比較して、世界で取引されたワインは 1 億 4700 万リットルであったが、収益は 2 億 3600 万€減少した。

2020年3月までの1年間のGTAのデータに基づき数量ベースでみてゆくと、イタリアは世界の主要な輸出国としての地位をスペインから奪った。イタリアの輸出量は21億9100万リットル(+9.6%)で、スペインは20億9500万リットル(+1.8%)。イタリアは1億9100万リットル輸出量を増やし、一方スペインの増加量は3630万リットル。フランスは世界第3の輸出国としての勢いに影が差し、1%減少して14億60万リットル(1480万リットル減)。しかし、金額ベースにおいてのフランスの頭領ぶりには議論の余地がなく、95億5100万€で0.1%の増加。

金額ベースでみてゆくと、上記の通りフランスがまたも世界ランキングで他を寄せ付けないリードをみせて、1070万€増加して95億5100万€(+0.1%)。平均販売価格は6.82€/L。イタリアは数量ベース同様に金額ベースでも絶対的な増加を記録し(2億2340万€)、65億700万€(+3.6%)で第2位の輸出国として市場シェアを獲得した。後塵を拝する結果となった第3位のスペインは、売上高を約8.4%減少させ26億7900万€(2億4500万€減)。

世界のワインとマストの輸出に占めるイタリア、スペイン、フランスの合計は、数量ベースで約55%、金額ベースでの約60%を占める。

売上高ランキングの上位5位までには、オーストラリア(18億500万€)とチリ(17億1200万€)が入り、わずかながらも伸びを示している。しかし、チリは数量ベースでは第4位の輸出国で8億6300万リットル(2000万リットル増)、一方のオーストラリアは10%減少させて7億3670万リットル(8300万リットル減)であることをみると、この二国の差は大きいといえる。同上位8位までをみると、米国(12億6100万€、+2.8%)、ニュージーランド(11億1200万€、+7.5%)、ドイツ(10億2440万€、0.8%減)の順となる。いずれも2020年3月までの1年間に10億€を超えるワインの輸出売上高を計上している。

総括すると、世界のワイン輸出額は、2020年3月まで前年比0.7%減少した。これは、2014年12月からの12か月間の期間に起こって以来のことである。それから5年後、世界の貿易額は約1億5000万リットルの販売増加があつたにもかかわらず、価格は下落した。売上高は12か月で2億3600万€の減少となり、この要因は2020年の第1四半期のデータの悪化であり、この時期に3億5000万€が失われ、中でもフランスの2020年の出だしは最悪で2億5000万€の損失を計上。2020年のワイン業界は、新型コロナウイルスによる危機、一部のヨーロッパの国に対する米国のボトル詰めワインの関税引き上げ、ブレグジット、ロシア連邦の新しいワイン法、または日本経済の減速など、深刻な脅威に直面している。

スペインのワイン輸出状況－2020年6月現在

スペイン国税庁・AEAT (Agencia Estatal de Administración Tributaria)によると、新型コロナウイルスの世界的は大流行の影響を受けた2020年上半期のスペインのワインの輸出は全般的に数字の下振れを記録し、数量ベースで1億2410万リットル減(11.6%減)の**9億4640万リットル**となった。金額ベースでは約9100万€減額(7%減)して**11億9810万€**となった。平均販売価格はこの半期6か月のうちに約5%上昇し、1リットル当たり6セント増加して1.27€。

種類別にみると、スパークリングワインの輸出は2020年上半期、特に4月と5月に非常に不活発化し、6月には数量ベースでは増加が見られたものの（+8%）価格の下落が起こった。2020年上半期の締めとしては、数量ベースは8%減少して7480万リットル、金額ベースでは平均販売価格は7%減少して1リットル当たり2.22€まで下がったため、14.8%の下落となって1億6640万€。スペインの2020年上半期のスパークリングワインの輸出は数量ベースで650万リットルと、金額ベースでは2019年上半期に比べて約2900万€の減少となった。平均販売価格は18セント値下がり。

市場別では、米国はスペインのスパークリングワインにとって大切な輸出先国であり2340万€を売り上げてきているが、これは24%減の大幅な損失。数量ベースではドイツが第一位の輸出先国であり、1350万リットル輸出して5%の増加。

2020年上半期、スペインの輸出はオランダ、カナダ及びメキシコへ輸出が数量ベース及び金額ベースともに増加したことが目を引く。イタリアも同期、目立った輸出の増加を記録し、特に数量ベースは際立った成長（+461%、130万リットル）を見せたが平均販売価格は大幅に値下げしている（-79%、1リットル当たり85セント）、結果として金額ベースでは19%の成長で110万€という結果となった。減少がみられた輸出先国のうち代表的な市場は米国、フランス、ベルギー、日本。

ボトル詰めスティルワインに関しては、6月にデータが好転して、今年の上半期の落ち込みを和らげたが、2020年上半期、数量ベース及び金額ベースの両方で約5%の減少を記録し、3億3350万リットル（4.7%減）で、7億4650万€（5.2%減）、平均販売価格は1リットル当たり2.24€（0.5%減）の結果となった。すなわち輸出の減少は数量ベースで1650万リットル減、金額ベースで4110万€減、平均販売価格の減少は1セント。

すべての種類のワインが数量ベース及び金額ベースともに落ち込むなかで、白の単独品種ワインのボトル詰め（金額ベースで+4%、数量ベースで+6.7%）と、D.O.表示のないボトル詰め白ワインの輸出が数量ベースで伸びた（+8.9%、2950万リットル）。しかしながら平均販売価格が12.6%値下がりして1リットル当たり87セントとなったため、売上高は5%減少し2580万€となった。

2020年前半、スペインのボトル詰めワイン全般（スティルワイン、シェリー等のリキュールワイン、微発泡性ワインを含む）の輸出を市場別にみると、主要な輸出先国のうち伸びがみられた国は金額ベース及び数量ベースで成長を記録したのは**英国**（金額ベースで+9.6%、数量ベースで+17%）と**オランダ**（金額ベースで+8%、数量ベースで+6.3%）。さらに、金額ベースでは**カナダ**（+6.4%）、安価なワインであったものの数量ベースでは**ドイツ**（+1.9%）、**フランス**（+1.6%）、**メキシコ**（+12.5%）が増加した。

輸出減少した市場としては、**中国**（金額ベースで42%減、数量ベースで35%減）、**ポルトガル**（金額ベースで16%減、数量ベースで19.6%）、**日本**（金額ベースで18%

減、数量ベースで 19%減)、そして**米国** (金額ベースで 12.5%減、数量ベースで 12.7%減) など。

平均販売価格に関しては、世界の市場全般に値下がりが見られた中でノルウェー (+1.8%) と日本 (+0.5%) は例外的に伸び、一方、フランス (27%減) とドイツ (36%減) は値崩れを浮き彫りにした。

最後に、バルクワイン (10 リットル以上の容器) の輸出に関しては、6 月に数量ベースで 14%減少したが、金額ベースで 3%増加した。平均販売価格は+19%の 46 セント。

この 6 月のパフォーマンスは 2020 年上半期の損失を若干和らげた。減少は金額ベースで 9%減、数量ベースで 17.7%減、平均販売価格は 10.5%の値上がりとし、結果として数量ベースで 4 億 9850 万リットル (1 億 740 万リットル減)、金額ベースで 2 億 2380 万€ (2230 万ユーロ減)、1 リットル当たりの平均販売価格は 45 セント (+4 セント) を記録した。

サブカテゴリー別では、**D. 0. 表示なしのバルクワイン**の損失が最も大きく (金額ベースで 15.6%減、数量ベースで 23.6%減)、このタイプに属する製品の輸出が 1 億 390 万リットル停滞したこととなり、売上額としては 2630 万€の減。輸出量は 3 億 3620 万リットル、で 1 億 4250 万€。平均販売価格は 42 セント (+10.5%) 。

他方、**PGI 表示のあるバルクワイン**の輸出は増加を記録した (金額ベースで+3%、数量ベースで+9%)。特に赤とロゼの輸出は増加を記録 (金額ベースで+8%、数量ベースで+14%)、一方同種の白ワインの輸出は減少。**品種表示のあるバルクワイン**の輸出も金額ベースで増加 (+7.7%) したが、数量ベースでは減少 (2.4%減)。

市場変化の影響として特筆すべきは、2020 年 6 月にロシアのぶどう栽培法が施行され、スペインのバルクワインの当該月の輸出は完全になくなった。

最後に 2019 年 7 月から 2020 年 6 月までの 12 か月期 でスペインワインの輸出は **19 億 9990 万リットル (3%減)**、**25 億 9970 万€ (7%減)**、**1 リットル当たりの平均販売価格は 1.30€ (4.1%減)**。数量ベースでは 2000 万ヘクトリットルに迫るが、2 か月連続してこの数値を下回る記録となり、これは 2018 年 12 月以来のこととなる。年次金額ベースでは同時期、2020 年 6 月の金額は 2020 年 5 月を上回り、2020 年 6 月に記録された 25 億 9970 万€を下回る金額は 2018 年 8 月まで遡らないとみられない。

2020 年 6 月時点での年次データは、スペインワインの輸出は 6080 万リットル減の 1 億 9500 万€。平均販売価格は 6 セント値下がり。

種類別スペインのワイン輸出

出典：スペイン国税庁のデータをもとにOeMvが作成/＊2020年6月のデータは、2019年7月から2020年6月期の年次累積データ(TAM)

単位：100万€	1995年	2000年	2005年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 6月末*	2019/18 年比
DOボトルワイン	261.6	586.8	735.7	1,007	1,082.8	1,120.3	1,198.7	1,221.0	1,269.7	1,207.9	1,197.7	1,169.7	-0.8%
DOバルクワイン	55.0	47.3	39.2	45.4	49.1	31.9	27.2	26.9	25.6	25.7	24.2	23.1	-6.1%
DO無しボトルワイン	43.5	125.6	170.8	423.5	424.9	404.5	412.4	404.1	449.5	471.0	439.0	419.6	-6.8%
DO無しバルクワイン	69.7	144.4	217.0	424.3	498.5	470.7	476.9	467.5	564.6	624.8	494.1	477.3	-20.9%
発泡性ワイン	120.5	228.3	289.7	419.4	458.6	410.3	438.0	429.4	460.3	516.7	452.7	428.3	-12.4%
リキュールワイン	176.4	91.8	83.3	59.0	59.3	64.7	65.7	67.8	65.2	61.7	61.7	59.5	0.1%
微発泡性ワイン	5.6	2.4	5.0	18.2	23.4	23.5	22.2	28.2	23.0	17.0	21.2	20.3	24.6%
合計	732.4	1,226.6	1,540.6	2,397.6	2,596.7	2,526.0	2,641.2	2,645.0	2,857.9	2,924.8	2,690.6	2,593.3	-8.0%
単位：100万リットル													
DOボトルワイン	132.8	202.8	257.0	338.6	346.3	350.1	359.3	367.4	369.9	329.7	322.1	316.1	-2.3%
DOバルクワイン	105.8	66.4	74.7	63.4	53.4	39.1	24.8	25.1	24.1	19.7	17.7	16.4	-9.8%
DO無しボトルワイン	69.5	139.6	219.5	463.4	356.7	394.9	429.7	399.6	439.8	373.1	388.8	376.7	4.2%
DO無しバルクワイン	175.2	330.8	696.2	943.1	844.7	1,235.3	1,373.1	1,231.1	1,245.2	1,054.5	1,180.1	1,080.0	11.9%
発泡性ワイン	48.1	71.6	108.7	158.2	160.6	168.7	170.3	168.3	182.8	188.4	180.5	174.0	-4.2%
リキュールワイン	90.8	39.3	30.2	23.2	18.7	20.8	20.3	18.3	17.5	16.3	17.0	16.9	4.6%
微発泡性ワイン	13.0	6.4	2.1	17.7	20.1	19.3	15.8	19.4	18.3	12.8	18.0	18.2	41.0%
合計	635.2	856.9	1,388.5	2,007.6	1,800.6	2,228.2	2,393.3	2,229.2	2,297.6	1,994.3	2,124.2	1,998.4	6.5%
単位：€/1リットルあたり													
DOボトルワイン	1.97	2.89	2.86	2.98	3.13	3.20	3.34	3.32	3.43	3.66	3.72	3.70	1.5%
DOバルクワイン	0.52	0.71	0.52	0.72	0.92	0.82	1.09	1.07	1.06	1.31	1.36	1.40	4.2%
DO無しボトルワイン	0.63	0.90	0.78	0.91	1.19	1.02	0.96	1.01	1.02	1.26	1.13	1.11	-10.6%
DO無しバルクワイン	0.40	0.44	0.31	0.45	0.59	0.38	0.35	0.38	0.45	0.59	0.42	0.44	-29.3%
発泡性ワイン	2.50	3.19	2.66	2.65	2.86	2.43	2.57	2.55	2.52	2.74	2.51	2.44	-8.6%
リキュールワイン	1.94	2.34	2.75	2.54	3.16	3.11	3.23	3.70	3.73	3.79	3.63	3.52	-4.3%
微発泡性ワイン	0.43	0.38	2.32	1.03	1.17	1.22	1.41	1.45	1.26	1.33	1.18	1.12	-11.7%
合計	1.15	1.43	1.11	1.19	1.44	1.13	1.10	1.19	1.24	1.47	1.27	1.30	-13.6%

(注) 「種類別スペインワインの輸出」の表中、2020年6月末のデータは、2019年7月から2020年6月期の年次累積データ(TAM-Tasa Anual Móvil)を基にしています。

今後、その他の年と同様に暦年の年次累計にした時点で数値は変動します。また文章はスペイン国税庁のデータを基にしていますので、表中の数字と一致しない部分がありますことをご了承ください。

参考 - 2020年・ワイン産業の抱える課題

新型コロナウイルスの世界的な流行によって引き起こされた危機がワイン産業にどのように影響するかについては、この数か月、様々に取りざたされている。確かにこの新型コロナウイルスのもたらした経済的影響は非常時厳しい可能性がある。しかしながら、これがワイン産業にとっての唯一の懸念というわけではなく、程度の差こそあれ、ワインやその他の産品に損失を与えるそれ以外の貿易上の問題にも併せて対応する必要がある。

- A) **ブレグジット (Brexit・英国のEU離脱)** : 国民投票の結果英国のEU離脱が決まり、それにより起こったポンド安はワイン貿易にとっても打撃であった。ことにヨーロッパのワイン貿易にとっては2020年の終わりまで継続している貿易交渉の結果によって影響の程度に差がでる。もし貿易協定が締結されるならば、その他の産地からのワインとの競争が激化したとしても影響は少ないとみられる。貿易協定が承認されなかった場合、これは取引、管理、流通に資するものであり、また、製法品質基準やラベルの表示基準の認証にも影響する可能性があるため、それなりの影響は否定できない。しかしながら各企業の努力によって適応できるものともいえる。
- B) **トランプ政権によって課された米国の関税**: スティールワイン（発泡性ワインやリキュールワインではない物）にとって特に大きな懸念材料。2019年末の決算は悪くはなかったが、スティールワインの輸出への影響はすでに11月と12月の数字に表れた。スペインワインに比べてフランスワインへの影響が大きい。また、この関税政策は一部の国に適用され（フランス、ドイツ、イギリス、スペイン）一部の国は除外（イタリア、ポルトガル、その他）されている。このことは、スペインの貿易先として重要なアメリカという大規模市場への輸出に影響を与える可能性がある。関税引き上げが実施されてから最初の7か月（2019年11月から2020年5月まで）に、米国のボトル詰めワインの輸入は大幅に減少し、特に価格においてそれが顕著にみられた（購入額は3億2000万ドル以上の減少）。フランスは高額なワインの輸出国であるため、最も大きいダメージを受け、2億9000万ドルを失い大幅に貿易額を下落させた。ドイツも相当な損失を記録したが、それに比べるとスペインのボトル詰めワインの下落傾向は緩やかなものであった。イタリアはこの恩恵を受け、良いペースで売上高を増加させることができたが、やはり数量ベースでは減少。
- C) **中国** : 輸入は直近2年間にすでに減速傾向をみせていた。中国での新型コロナウイルスは沈静化しているように見えるが、すでに深刻な経済的影響が出ている。特に春節の時期に外食産業に向かうはずだった消費の大部分が失われ、これらの売上のほとんどは、2020年の後半にも回復することはないだろう。
- D) **日本市場の減速見込みの発表** : 2019年に最高のパフォーマンスをみせた市場のひとつであった。
- E) **ロシアの新しいワイン法** : 2020年6月に施行されたこの法律により、ロシア市場が最も輸入しているバルクワインの売上が世界的に伸び悩む可能性があり、その中でもスペインへの悪影響が懸念される。法施行前の5か月（2020年1月から5月）

には、ロシアが輸入するバルクワインは数量ベースで 45%減少しており、この影響を最も受けたのがスペイン (-60%)。特に 2020 年 5 月はスペインのバルクワインにとって 2015 年 3 月以来のロシア市場における最悪の月ともいえる崩壊が起こった。

これらすべての要因の複合的な結果が 2020 年の世界のワイン貿易にどの程度影響するかまだ見えていないが、現時点では、販売、注文、流通への影響は表面化しており、国と国の輸送は減少しているといえる。これらの影響が北米などの他の市場でどのように拡大するのかをまだ見極める必要がある。すべてはこの危機的状態がどの程度の期間継続するのか、また、目に見えて改善がみられる下半期があるかどうかにかかっている。

回復できないこともあるだろうが、11 月と 12 月にこれらの要因を違う目で見ることができるよう願う。